



清風

グローバルな視点を地域活性化に!

日光清風塾会報第 23 号

発行 令和 3 年 3 月 15 日

March 15, 2021

発行者 日光清風塾

日光市所野 2836-10

Tel&Fax 0288-53-1512

昨年はコロナで始まり、感染の勢いが第一波から第二波を経てそのまま年を越し、今や第三波と続き勢いが止まりません。世界では1億2000万を越える感染者数となり、死者の数は270万を越えています。日本も感染者数45万を越え、死者の数は8,000人を越え、医療現場が逼迫するほど深刻化しています。栃木県も第2回目の緊急事態宣言は解徐されたものの予断を許さない状況です。

講話会も昨年3月、4月、5月、6月の4カ月間は中止と致しました。令和二年度の総会も中止となりましたが、社会活動が停止してしまうことへの危惧もありCOVID19の現状と会場の環境に配慮しながら7月から講話会を再開。11月は塾長の都合により中止となりましたが、12月は開催致しました。コロナが出来るだけ早く終息することを願うばかりです。

講話シリーズ

第82回塾長講話会 令和2年7月26日

「新型コロナ後の世界について議論しよう」

音楽、芸術、スポーツの世界、すべての文化活動がライブから遠ざかり、ネット上での発信状況にある。宇都宮市出身のバイオリニスト、渡邊響子さんもその一人。今回、講話会に併せて、半時間ほど、生演奏をしていただくことが出来た。更にキャリアの集大成となる「晚霞」の著作者、佐藤勝宏元宇都宮高校校長と指書道家の唐沢兵夫先生にもご出席いただいた。



参加者からの意見を踏まえて塾長が指摘した点は①実態は言われているより深刻であると思

われる。その上で対策を考える必要を感じる。WHOも日本が始めた三密回避キャンペーン(3Cs)を進める。②難しい世の中になったがそれを生き抜く対策として仕事の迅速な処理を可能にするIT活用を考えるべき。ネット会議、オンライン授業、テレワーク等。印鑑も不要。コロナ騒ぎで判明したことは日本社会がいかにIT活用に遅れているかということ。先日(塾長は)シンガポールの学生がアレンジしたアセアン諸国の学生向けのオンライン講演を行った。外国へ行かなくても講演が出来ることを実感した。③中国の進出が世界の敵愾心を煽っている。この状況を憂慮。中国発のコロナはヨーロッパ、アメリカで拡大。中国は自国の責任論回避のため、いろいろなところで強硬策をとっている。日本では米中対立問題を米中だけの問題としてみるところがあるが、日本にも重要な問題。米中対決より、厳しいことが予想される。双方に話し合いが出来る関係を築くこと。戦争回避のため、全地球人の為、日本は米中との話し合いに努力すべき。日本の役割は重大。中国の体制が民主主義体制より能力があると言